

2020年12月24日

東日本旅客鉄道株式会社
代表取締役社長 深澤祐二様

産業遺産学会会長 天野武弘

鉄道遺構「高輪築堤」保存・公開の要望

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。JR高輪ゲートウェイ駅の工事現場から、1872（明治5）年に開業した日本初の官設鉄道の遺構である「高輪築堤」が発見されました。「海の中を走る鉄道」と伝えられる幻の築堤です。

産業遺産学会は、1km余りにおよぶ築堤が交通史や土木史、土木技術などの研究にたいへん重要な産業遺産であり、近代化の幕開けと世界との接点を象徴する文化財であると考えます。また、鉄道記念物や国の重要文化財あるいは史跡にふさわしい価値を持つ鉄道土木遺産であるとも考えます。

産業遺産学会は、貴社がご発表になった「高輪築堤」遺構の保存・公開が、確かな歴史を後世に伝え、日本の近代を見直す大きなきっかけになるばかりでなく、人々が日本の技術や文化に誇りをもち、未来を切り開いていくための糧となると確信いたします。観光資源としての価値も持ちうる鉄道遺産の保存と公開のご決定に賛同申しあげるとともに、敬意を表したいと存じます。

記

要望

「高輪築堤」遺構の文化財的価値をご理解の上、遺構を発掘規模で保存し、鉄道の原点を飾る産業遺産を見学できるよう、公開くださいますことを要望します。

要望の理由

- (1) 明治初期までに日本人が培ってきた土木技術と、鉄道黎明期の敷設技術を知る上で貴重な遺構である。また、お雇い英国人エドモンド・モレルが指導した鉄道技術と、それをどのように日本人技術者が消化・吸収したかを知るうえでの貴重な鉄道技術遺産でもある。こうした、在来の土木技術と先進の西洋鉄道技術の接合が見られる点では類例がなく、「世界史の視点で重要」な鉄道遺構である。
- (2) 明治後期から昭和にかけての埋め立てで姿を消し、伝承に甘んじてきた海上築堤の姿を後世に伝える貴重な歴史遺産である。1872（明治5）年の単線開業と1877（明治10）年の複線完成時で鉄道敷設技術がどのように進歩したのか、また同時に行われた木桁から鉄桁への架け換えでは、橋台の構造をどのように変更したのかなどが検証できる鉄道土木遺産でもある。

- (3) 新橋・横浜間の鉄道遺構には、復元され国の史跡に指定されている「旧新橋停車場」があるが、「高輪築堤」は日本鉄道史の原点、技術、人々の夢や野望をより確実に後世に伝える糧になる。日本国有鉄道は1958（昭和33）年、鉄道記念物の指定を始め、初年度に1号機関車と旧新橋駅の0マイルポストを指定している。鉄道記念物と1963（昭和38）年に開始された準鉄道記念物は他の産業遺産に先駆けた敬意を表すべき保存制度であるが、「高輪築堤」はこれに新たな一頁を加えるほどの発見である。「旧新橋停車場」と「高輪築堤」を同レベルで保存・公開することが重要である。
- (4) 旧碓氷峠鉄道施設や旧手宮鉄道施設、門司港駅、東京駅、梅小路機関車庫は重要文化財に指定され、「石見銀山遺跡とその文化的景観」や「富岡製糸場と絹産業遺産群」、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」が世界遺産一覧表に記載されるなど、産業遺産への関心が深まり、一般の人々の間でもその歴史的価値、文化的価値への認識が広まっている。「高輪築堤」遺構はそれら日本の近代化を象徴する土木遺産であると同時に、観光資源としての資質を有する産業遺産である。

産業遺産学会について

産業遺産学会は1977（昭和52）年、産業考古学会として発足し、産業遺産や関連資料の調査・研究、保存活動を行ってきました。今日では文化財に指定・登録される産業遺産が増え、「石見銀山遺跡とその文化的景観」や「富岡製糸場と絹産業遺産群」、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」など世界遺産が誕生するまでになりました。しかし、学会設立当初は社会の産業遺産に対する認識は薄く、多くの価値ある産業遺産が顧みられることなく取り壊されました。そこで産業考古学会は1979（昭和54）年、保存要望活動を始め、1996（平成8）年には旧新橋停車場遺構の保存要望書も提出しました。また、1983（昭和58）年には功労者表彰制度、1985（昭和60）年には推薦産業遺産制度を創設し、碓氷アプト線遺構や奥羽本線板屋峠鉄道施設群などを認定してきました。2020（令和2）年4月には、研究を進化・発展させ、保存から活用に向けた活動を活発化させるため、産業遺産学会に改名しました。

産業遺産学会

会長 天野武弘

鉄道分科会主査 山田俊明

〒113-0033 東京都中央区新川 2-22-4

株式会社共立気付

Tel. 03-3551-9891

担当 小西伸彦

〒162-00056 東京都新宿区若松町 19-1

総務省第二庁舎別館

産業遺産情報センター

Tel. 03-6457-3655 080-3886-7030

E-mail n.konishi@ihic.jp

以上